JRC千葉

2024
Vol.16

令和5年度 千葉県青少年赤十字スタディー・センター（小学生）

特集　**赤十字の防災教育プログラム**

学校（園）で活かせる

青少年赤十字のプログラム

学習で活用できるプログラム

学校の希望に応じた体験活動を実施することができます。

体験活動を通じて、児童生徒に「命と健康の大切さ」を伝え、相手に対する思いやりを行動に移すことができる子供の育成に活用できます

- 救急法講習会（AEDの使い方、心肺蘇生、三角巾を使った応急手当等）
- 水上安全法講習会（着衣泳）
- 福祉体験プログラム（高齢者体験、車いす体験、点字体験）
- 各種講話（防災について、ボランティアについて、国際理解について）
- 職場体験、インターンシップの受け入れ

学習プログラムの詳細はこちら ▶

活動に活かせる資料等の提供

青少年赤十字の実践目標に関する学習や防災教育に役立つ教材を提供することができます。

教材はホームページからダウンロードすることができます。

防災教材　機関紙

充実した資材と学習サポート

青少年赤十字では、体験活動等を実施するための豊富な人材や学習資材を用意しています。

- 救急法等講習会の指導員（赤十字指導員）
- 各種講演会の講師（赤十字職員）
- 体験活動の講師・補助者（赤十字ボランティア）

- 高齢者疑似体験セット（31セット）
- 点字盤セット（40面）
- ボッチャセット（2セット）
- 地雷模型
- 防災ゲーム
- ゴールボールセット　など

生きる力　文部科学省 学習指導要領

変化の激しいこれからの社会を生きるために、確かな学力、豊かな人間性、健康・体力の知・徳・体をバランスよく育てることが大切だと示されています。その中で次の充実化がうたわれています。

体験活動の重視

学校や学級内の人間関係や環境を整えるとともに、集団宿泊活動やボランティア活動，自然体験活動、地域の行事への参加などの豊かな体験を充実すること。

- 赤十字の救急法等講習会の活用
- 児童生徒向け研修会・交流会の活用
- 福祉体験プログラム

道徳教育の充実

道徳教育の充実のために家庭や地域の人々の積極的な参加や協力を得たりするなど、家庭や地域社会との共通理解を深め、相互の連携を図ること。

- 地域の赤十字ボランティアとの福祉体験プログラム等の学習サポートを通じた相互交流

青少年赤十字（Junior Red Cross）では、さまざまなプログラムが用意され、子どもたちの考え方や行動力、社会性を広げます。
総合的な学習（探求）の時間や教科の学習、部活動、学級・児童会・生徒会・委員会活動等の様々な場面で活用してみませんか？

赤十字主催のプログラム

児童生徒向け研修会・交流会

他校の児童生徒と交流・学習し、共に高め合うことができます。

- リーダーシップ・トレーニング・センター
- スタディー・センター
- 千葉県青少年赤十字のつどい
- 高校メンバー協議会・中学生交流会

指導者向け研修会

青少年赤十字が長年培ってきたノウハウを指導者に提供しています。

- 青少年赤十字指導者研修会
- 教師のための指導力アップセミナー　など

国際理解教育への活用

赤十字のネットワークを活かし、国内外を視野に入れた活動や、海外メンバーの受け入れなどを行っています。
コロナ禍ではオンラインを活用した交流を実施しています。

- 国際交流派遣、受け入れの実施
- 一円玉募金を通じた海外への支援
- トピックアルバムやビデオレターの交換

国内交流派遣（小学生メンバー対象）

※佐賀県のメンバーとの交流を実施しています。

JRCを経験した子どもたちの声

いのちと健康を大事にします。

友達の気持ちを考えて行動します！

学校や家で自分ができることを実行しています。

青少年赤十字の「実践目標」と「態度目標」

児童生徒の「生きる力」の充実と実践に青少年赤十字が活用できます。

実践目標「生きる力」の充実化

バランスよく育てる教育方針

『健康・安全』
生命と健康を大切にする

『奉仕』
社会のため、人のためにつくす責任を自覚し、実行する

『国際理解・親善』
広く世界の青少年を知り、仲良く助け合う精神を養う

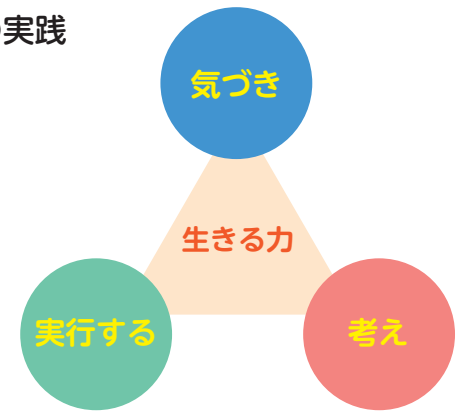
態度目標「生きる力」の実践

活動においての指針

『気づき』
自分の生活や社会のニーズに気づく

『考え』
原因と解決の方法を考える

『実行する』
問題解決のための具体的な行動を実行・評価・反省する。



採用校での活動実践事例紹介

銚子市立明神小学校の紹介

青少年赤十字の態度目標である「気づき、考え、実行する」と関連させた教育活動を推進し、学校だけでなく保護者や地域と一緒に JRC 活動の充実を図っています。令和3年度からの3年間は、青少年赤十字研究推進校として「課題を見付け、考え、行動できる明神っ子の育成」を主題に活動に取り組みました。

活動紹介

登録式

新入生にバッジを授与。またオリジナルの劇で、アンリー・デュナンや青少年赤十字の実践目標をわかりやすく発表しました。

収集活動

毎週水曜日に1円玉募金、アルミ缶、エコキャップの回収を実施。VS 活動の時間に集まったものを数え、お知らせをとして各学年に掲示物を作成し届けています。

ボランティア活動

❶ 活動時間

毎月第 2 または第 3 金曜日の5時間目（全 12 時間）

1、2年生　生活科　3～6年生　総合的な学習の時間

❷ 活動の流れ

(1) 児童集会で目的を確認

(2) 学年でボランティア活動を計画し、各学級で何のために、何をするのか話し合う。

(3) 月1回ボランティア活動実施

・実施後5分程度で簡単な振り返りと、児童集会で各学年から活動報告をする

・学年便り、ホームページ等で保護者、地域へ発信

(4) 1年間のふり返りを行う

◎子供たちの授業の様子をストックしておく。(担任・環境部・学年付きの先生)
・写真
・動画
・子どものつぶやき（良いことも悪いことも、ひろっておく）

例:

ボランティア活動（ 月）　年　組

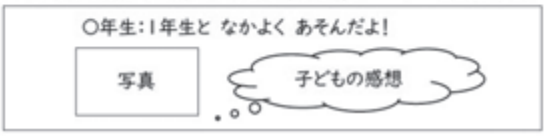
活動内容:学校周辺のゴミ拾い

名前	つぶやき
○○	こんなにもゴミが落ちているなんて驚き! どうしてこんなにもゴミが落ちているのだろう。
△△	疲れるな。やりたくないな。

○感想の取りまとめ(担任・環境部)
・学習の振り返りとして、学期末に1回は感想を書く。

○ボランティア活動充実のための環境整備(環境部)
・各学年がどのような取り組みを行ったかを紹介する掲示コーナーを設置する。

例:



できる範囲の中で最大限の成果を出すためには、どうしたらよいか考え実行する力を養います

先生からのコメント

異学年交流を通して学ぶことや、「学校や地域のために」という思いが少しずつ高まってきました。きれいになった学校を見て、働くことの楽しさを感じる児童が増えてきました。

ボランティア活動は始まったばかりですが、少しずつ視野を広げながら様々な活動に取り組んでいる様子が見られます。このボランティア活動を通じて、自ら「気づき」「考え」「行動」できる、そんな子ども達の姿を目指していきたいと思います。

活動紹介

高校メンバー協議会

年2回、採用校の高校生が県内各地から集まり、仲間との交流を通じて「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」の学習・実践活動を行っています。会の企画・運営は毎年立候補した高校生メンバー役員が担っています。

今年度のテーマは“多様性の理解と尊重”

それぞれの環境や立場、生き方、考え方を理解し、尊重することは、赤十字の原則である「人道」「公平」「中立」を妨げる差別や偏見を減らすことに繋がります。そのために“私たちに何ができるのか“ を考えました。

第1回　6月16日(金)

“千葉県赤十字語学奉仕団”として通訳のボランティア活動をしている外国人の方を迎え、来日のきっかけやボランティア活動への思いをお話いただいた他、それぞれの国の遊びや歌などを体験し交流を深めました。

第2回　11月8日(水)

目に見える障がいの学習(ゲスト:義足利用者)、目に見えない障がいの学習(講師:心理療法士)やグループワークを通し、多様性との向き合い方や寄り添い方について理解を深め、自分には何ができるかを考えました。

役員を務めた感想

- 大人数の前で話すことが苦手な私でも、県メンをやり切ることができました! 皆さんが楽しく活動している様子を見ることができて嬉しかったです。こんなにやりがいのある経験は学校でできないと思います!
- 最初はものすごく不安でしたが、役員の仲間と協力し様々な企画を考え、運営していく楽しさを感じました。企画は考えなければいけないことが多く難航しましたが役員が協力し、職員の方々や顧問の先生の助けを借ることで、様々なことを実現できました。これからもこのような運営に携われる機会があれば参加したいと思います。

指導者向け研修会

学校現場へ青少年赤十字を取り入れ、学校づくりや子どもの育成等に役立てていたくための研修会を実施しています。

リーダーシップ・トレーニング・センター指導者研修会

県内各地区でリーダーシップ・トレーニング・センター（以下トレセン）指導に関わる先生方が参加しました。指導経験豊富な先生から、はじめてトレセン指導に携わる先生に対し講座の特徴や組み立て方などが伝えられました。

教師のための指導力アップセミナー

3 日間にわたり開催され延べ 63 名の先生方が参加しました。青少年赤十字が培ってきた「グループ・ワークの理論と実践」を研修の中心に据え、学級経営や教科指導に活かせる、子どもたちが自主的、意欲的に取り組むための手立てを体験しながら研修しました。

千葉県青少年赤十字指導者研修会

12 月 27 日（水）から 28 日（木）にかけ、児童・生徒対象の研修会スタディー・センター（以下スタセン）と並行して開催しました。実際に児童・生徒が取り組むスタセンのプログラムを体験し、青少年赤十字の指導法のねらいとその活用について理解を深めました。

青少年赤十字の各種行事・研修会については千葉県・千葉市教育委員会の後援を受けており、学校長の許可をいただければ「2年目3年目の選択研修」や「中堅教諭当資質向上研修の選択研修の自主研修」として活用いただけます。ぜひご活用ください。

特集 赤十字の防災教育プログラム

日赤は、1888（明治 21）年に発生した「磐梯山噴火災害」で初めて災害救護活動を実施して以来、これまで多くの災害で医療救護を行ってきました。日赤の防災教育は、子どもたちが主体的に取り組み、知識と行動力を身につけることができるだけでなく、他者への思いやりや優しさ、いのちの大切さを学び取る力を育むことができます。

園児から高校生まで、校種に応じた教材提供や、講師派遣を行っています。

活用方法1 授業で使用する

「まもるいのちひろめるぼうさい」

対象 小・中・高

自然災害に向き合ってきた日赤と現場の教員が開発・制作した「授業ですぐ使える防災教材」です。児童・生徒が防災について意欲的に学習に取り組めるよう、付属のDVD（映像）と連動した指導案とワークシートで構成されています。

授業への講師派遣も可能です

活用方法2 講師派遣を依頼して防災セミナーを開催する

これまでの災害救護活動において培ってきた経験や技術を、教育現場の防災教育にお役立ていただくため、採用校へ講師を派遣しています。

防災セミナー カリキュラムの例

● 講話　災害への備え（約 60 分） 対象 中学生以上

自然災害や感染症がもたらす様々な被害から、いのちを守り、その後の暮らしをつなぐために、平時から備えること（自助・共助）の重要性を学びます。

● 家具安全対策ゲーム（KAG）（約 45 分） 対象 小学校高学年以上

就寝中の家具による事故を防ぎ、家の中にけがの原因が潜んでいるという危機感を高めて、日常から備えるために登場したのが「KAG」。実際に自宅の平面図を描き起こし、家具の配置で危険な箇所を把握して、地震が発生したときに、自分や家族の命を守るためにはどういった対策が必要か、ゲーム形式で学んでいくプログラムです。

● 「ひなんじょ たいけん」（約 90 分） 対象 中学生以上

いつ起こるかわからない大規模災害を想定して、「避難者の目線」で避難所における「自助」と「共助」の力の向上を目的としたプログラムです。避難所に見立てた平面図と、世帯ごとに避難者の年齢や健康状態、被災状況が書かれたカード。5～7人のグループになって、避難者に見立てたカードを引きながら考えていきます。さまざまな出来事、課題にどう対応していくか、意見交換しながら気づきを深めることで「避難者」を疑似体験することができます。

活用方法3 学校行事やレクリエーションで活用

楽しみながら防災を学ぶことができる防災教材や、その他資材の貸出、映像資料の提供を行っています。

貸出教材

- ぼうさいまちがいさがし きけんはっけん!（対象：幼稚園・保育園）
- 防災すごろくゲーム（対象：小学校中学年～）
- 防災カードゲーム（対象：小学校低学年～）
- 段ボールベッド

映像資料

「おうちの中のモンスター」

いつやってくるか分からない大地震。実は、家の中にこそ大きな危険が潜んでいます。家族や身近な人たちと一緒に見ながら防災力を高めることができます。

「不安が見えなくなるメガネ」

災害時に働く 2 つの心理「正常性バイアス」「同調性バイアス」について理解を深めることができます。

防災教育プログラムのご相談やお申込みについては組織普及課青少年係までお問い合わせください。

問い合わせ先 043-241-7531 soshiki@chiba.jrc.or.jp

みなさんの青少年赤十字活動を応援します！

青少年赤十字活動支援事業の紹介

年間6校(園)に対し
上限5万円を
助成します

日本赤十字社千葉県支部では、採用校(園)が行う青少年赤十字の「健康・安全」「奉仕」「国際理解・親善」にかかわる活動に対する支援を目的に、支援金の助成事業を行っています。

例えばこんな活動に・・・

- 幼稚園・保育園を訪問し、手作りの人形劇をする活動に使いたい!
- 防災マップや、ハイゼックスを使った炊き出しなど防災活動を行いたい!
- 赤十字を学び、糸杉の植樹を行う活動に使いたい!

期日までに申請のあった中から、千葉県支部・千葉県青少年指導者協議会で支援する学校(園)を選定し、決定します。

注意
令和7年度に向けたご案内になります。申込等については別途お知らせいたします。

お申込の流れ

1. 計画書を提出
2. 決定通知が届く
3. 支援金が入金される
4. 活動実施
5. 報告書と活動記録(写真)を提出
   提出いただいた写真は青少年赤十字の広報活動に使用させていただきます

新規 採用校紹介

新規採用校 **船橋市立大穴中学校** にお話を伺いました

JRCを採用したきっかけ

本校の生徒に、自ら「気づき」「考え」「実行する」という態度を身につけさせたいと考えたことがきっかけです。

学校での活用方法

総合的な学習の時間に、福祉学習や防災学習に関する JRC プログラムを活用しています。生徒たちは、体験を通して他者との適切な関係づくりや防災意識の向上を図っています。

また、生徒会役員がトレセンの研修などを通してリーダーとしての資質を高めるとともに、JRC の態度目標達成に向けて研修内容を生徒会活動に生かしていくように計画しています。

令和5年度の新規採用校

長生村立一松小学校・長生村立八積小学校・長生村立高根小学校・旭市立琴田小学校・横芝光町立上堺小学校
船橋市立大穴中学校・千葉県立市川昴高等学校

これからもよろしくお願いします。

千葉県の青少年赤十字

青少年赤十字の学校教育への採用推奨について

●青少年赤十字の学校教育への採用推奨について各機関から依頼文が発出されました。

千葉県では令和2年度から令和6年度までの期間に計画された、

第3期 千葉県教育振興基本計画

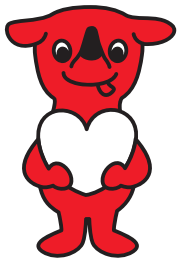
次世代へ光り輝く「教育立県ちば」プラン

を策定しました。

この中で、施策2「道徳性を高める心の教育の推進」において、「日本赤十字社や社会福祉協議会等の団体と連携した社会問題に取り組むボランティア活動等の推進」と記載されています。

▶千葉県教育委員会 教育長から
令和6年2月1日付
各県立学校長
各市町村教育委員会教育長
各教育事務所長あてに発出

▶千葉県総務部 学事課長から
令和6年1月21日付
各私立学校長あてに発出



千葉県PRマスコットキャラクター
チーバくん
千葉県許諾第A1562-9号

▶千葉市教育委員会 学校教育部教育指導課長から
令和6年2月2日付
各千葉市立小中高特別支援校長あてに発出

青少年赤十字の概況について

●青少年赤十字は全国の幼稚園、保育所(園)、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の約14,438校で採用され、約350万人が活動しています。

●千葉県では、千葉県教育委員会、千葉市教育委員会の後援により行事を実施しています。

●千葉県教育委員会及び総務部学事課、千葉市教育委員会から各学校の青少年赤十字の採用が推奨されており、県内の幼稚園、保育園を含んだ246校で、それぞれの実態に合わせて工夫した活動をしている仲間がいます。

※数字は令和５年３月31日現在

青少年赤十字の採用について

●活動に役立つ学習資料・資材の提供が受けられます。青少年赤十字プログラム(中面)をご参照ください。

●「総合的な学習の時間」「総合的な探求の時間」に活用できる体験学習やボランティア学習、防災・減災学習等の指導者を無料で派遣することができます。

●先生方を対象とした研修会、メンバーを対象とした職場体験等が受けられます。

●採用することで、何らかの義務や強制を伴うようなことは、一切ありません。

日本赤十字社 千葉県支部
Japanese Red Cross Society

青少年赤十字についてはこちら
https://www.chiba.jrc.or.jp/activity/youth/index.html

発行所/日本赤十字社千葉県支部　〒260-8509 千葉市中央区千葉港5-7　TEL 043-241-7531　FAX 043-248-6812　https://www.chiba.jrc.or.jp/